

別表6 容器等の設置数算定書

用途	廃棄物の種類	人員または床面積 × 排出基準 × 可燃・不燃・資源の割合 × 収集間隔 ÷ 容器の容量 = A (第2位四捨五入)	最低必要個数 (A端数切上)	予備率の加算 A × 1.4 = B	必要個数 (C)
住宅 (家庭系)	可燃	[人] × 1 kg × 0.76 × 3日 ÷ [kg] = _____ ①	個	① × 1.4 個	個
	不燃	[人] × 1 kg × 0.04 × 13日 ÷ [kg] = _____ ②	個	② × 1.4 個	個
	資源	[人] × 1 kg × 0.2 × 6日 ÷ 12.5kg = _____ ③ ※人員が45人未満の場合は、必要個数(C)を一律6個とする。	個	③ × 1.4 個	資源コンテナ 個
事務所	可燃	[m ²] × [kg] × [] × [日] ÷ [kg] = _____ ④	可燃 ④ + ⑥ + ⑧	(④ ~ ⑨) × 1.4	個
	不燃	[m ²] × [kg] × [] × [日] ÷ [kg] = _____ ⑤			
駐車場	可燃	[m ²] × [kg] × [] × [日] ÷ [kg] = _____ ⑥	不燃 ⑤ + ⑦ + ⑨		
	不燃	[m ²] × [kg] × [] × [日] ÷ [kg] = _____ ⑦			
	可燃	[m ²] × [kg] × [] × [日] ÷ [kg] = _____ ⑧	個	合計	個
	不燃	[m ²] × [kg] × [] × [日] ÷ [kg] = _____ ⑨			
			合計		

【算定上の注意】

1. 計算は用途別を実施し、必要個数を算定する。
2. 収集間隔は実態により記入する。住宅（家庭系）は台東区収集となり、可燃3日・不燃13日（月2回）・資源6日とする。
3. ごみ容器1個当たりの容量は原則として15kg（60リットル）を基準とする。反転コンテナボックスは0.7m³とし、175kgを基準とする。
4. 資源コンテナ1個当たりの容量は原則として12.5kg（50リットル）を基準とする。（資源コンテナは台東区にて貸与する。）
5. 資源はびん・缶・ペットボトル・食品発泡トレイ類・古紙類を含めて割合を0.2で算定をする。
6. 各品目別に収納するため、資源コンテナの最低必要個数は6個として算定する。
7. 個数の算定は、家庭系と事業系を区別する。事業系の用途が複数の場合、Aを合算して必要個数等を算出する。
8. Aは小数点第2位を四捨五入する。最低必要個数はAを切り上げる。
9. 必要個数はBの小数点以下を切り捨てる。
10. 予備率は40%を確保する。
11. 必要個数が最低必要個数より少ない場合は、最低必要個数を必要個数とする。